

中四地協 17年度社保平和活動交流集会(2/2~3)に参加して

2/2~3に岡山で開催された「2017年度中四地協社保平和活動交流集会」に、協同病院の川西Ns、平和病院の二川次長、栗林公園前薬局の中野さんと共に参加しました。内容は、数年前の香川民医連学運交にも来てくださった本田宏先生(NPO 法人医療制度研究会副理事長)による記念講演を始め、NPO 法人朝日訴訟の会事務局長・川谷宗夫氏による「人間裁判」の解説、各県による活動報告、分散会と非常に盛りだくさんでした。

中でも本田先生のお話「医療・介護崩壊に立ち向かう、考える力、9条風前の灯、なぜ今民医連社保平和活動の力が求められるのか」では、まず深刻な医療・介護を取り巻く実態の解説と、様々なデータを駆使して医師不足の問題やインフラなどの税金の使い方、報道の自由度などに見える日本の問題についてお話がありました。こういった問題の根底には、明治の世から長年に渡り、わが国を支配し続けるクレプトクラシー(収奪・盗賊政治)が深く関与しており、太古から築きあげられてきた、日本独特の家族構造から醸成された権威的イデオロギーを巧みに活かし、「官尊民卑の閣僚が自分たちの高い身分と利益のために国民を無知と貧困の状態に置いてきた」というショッキングな「事実」を語ってくださいました。

なるほど振り返ってみれば、私たちにとって一番大切なはずの「憲法」が、これまでの教育カリキュラムの中でも全く



と言っていいほど教えられたことはないし、ほとんどの大人が自分たちの国の憲法の内容を知らないなどという、世界の中でも稀有な状況は、意図的に為政者によってつくられてきたものなのだとということがわかりました。

本田先生は、これの打破なくしては今後も何も変わらないこと、打破していくためには、①物事を細部ではなく全体像でとらえること、②グローバルスタンダードと比較すること、③歴史の検証をすること、④いったい誰が得をしているのか見極めることを常に訓練しておく必要があることを強調されました。政府の思惑に踊らされず、「何も考えない国民」でいてはいけないと強く思いました。

(高松協同病院連携相談部 藤原勝之)



リレー投稿

核兵器のない世界を作る私たちの役割

先日、ノーベル平和賞授賞式に参加された日本原水爆被害者団体協議会の藤森事務局次長のお話を聞く機会がありました。ニュースでもよく話題になりました、ノーベル平和賞を受賞された拡兵器廃絶国際キャンペーン事務局長ベアトリスさんのお話しが頭の中に残っています。「本当に日本人は、平和を願っているのですか? 政府は、国民が作っているのですか」ときつい言葉をおっしゃられたそうです。

日本は唯一の被爆国なのに安倍首相は、北朝鮮問題でアメリカの核の傘に入って圧力をかけ、北朝鮮の非核化を目指す手段をとっています。冷静に考えると、圧力とは、米国の軍事力で脅していることを指します。米国の行動は、イラクの歴史を見ればわかりやすいと思います。かつてのフセイン政権のように、最初はイラン・イラク戦争で、軍事支援しておいて、クエートに進行すると湾岸戦争し、大量破壊兵器があるといってイラク戦争を行い、政権を壊し、地域は不安定化し続けています。偶発で核戦争が起きて、日本人がまた悲惨な歴史を繰

り返したら取り返しがつきません。

安倍首相は、権力を縛る国の最高法規である憲法の平和条項9条に、自衛隊を加える憲法改正を唱えています。唯一の被爆国らしく、軍事力に頼らず核兵器のない世界の理想に向けて、各職員ができる事を行いましょ。 「SNSで、情報を見してみる」「改憲されたら世の中がどう変わるのかを民医連 DVD で学習」「3月9日(金)に改憲反対プラスター行動に参加」「署名を集める」など、できる事から取り組みませんか。「戦争の作り」7分ほどのビデオ教材を組合員さんが寄付してくれたものが、みき診療所にあります。平和について考えませんか。

(香川医療生協組合員活動部 岸本大助)

安倍 改憲に

物申す



一言